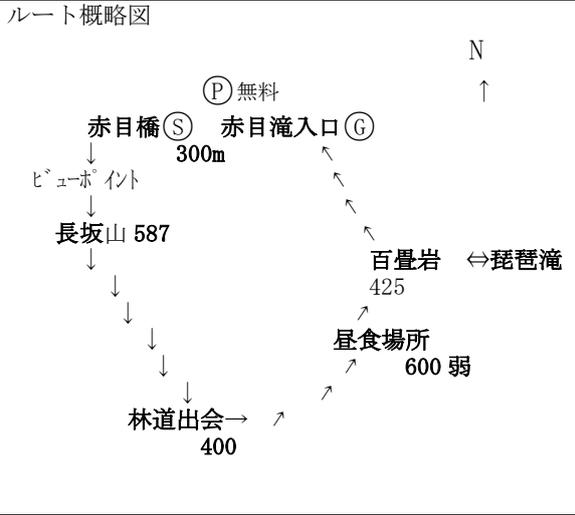


山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下

山名	赤目四十八滝溪谷・長坂山 587m		山行名	個人(ゆっくり)山行
ルート	赤目橋—長坂登山口—長坂山—赤目四十八滝合流点(百畳岩)—琵琶滝—赤目入口			
山行日	2024. 7. 19		天候	晴れ
参加者	リーダー：木田 男性：永井・藤井		サブリーダー：山下 女性：玉井・玉置 合計 6名	



コースタイム			
地名	時:分	地名	時:分
松井山手	集	百畳岩	着 13:00
	発		発
赤目滝駐車場	着	琵琶滝往復	着
	発		発
赤目橋	着	百畳岩	着 14:15
	発		発 14:30
ビューポイント	着	四十八滝ゲート	着 16:00
長坂山	着	赤目駐車場	発 16:20
昼食場所	着	松井山手	着 21:00
	発		発

木田山行部長提案の「ゆっくり山行」(「かなび」7月号)の第1回目の山行となる。梅雨が明けるかどうかの時期だったので、当初の予定日は天候不順で延期し、予備日に設定していた7/19(金)には天候回復の見込みがついて実行となった。この季節、低山は暑くて山行には不向きなので、天然の冷氣に囲まれてた溪谷である赤目四十八滝となった。この場所は大好きな場所で、思い返してみると今回で5回目の訪問となる。何回か訪問した年の功で滝道の右側にある長坂山を登ってから滝道と合流すれば、滝道の単純往復より魅力的ではないかと提案しコースを若干変更した。不安要因とし、足に不安を持つ方が安全に同行できるのだが、「ゆっくり山行」を「超超ゆっくり山行」にすればコース変更も可能との判断をした、

長坂山への緩やかな登りの後の尾根道は小さなアップダウンのハイキング道で落ち葉に埋もれた道は全体に歩き易く助かるも林道出合からの急登は意外だった。尾根が終わり滝道の合流点までの最後の激下りは足の具合の悪い彼女にとってはリハビリを超えての難行となる。一步一步足の置き場を探しつつ、標準の2倍以上の時間を掛けて(本人の意向と、ペースを合わせることで可能と判断したが、下りの難行を反省。)無事に合流点に下れた時には皆で歓喜した。元気な方は滝道の上流にある琵琶滝まで空身で往復した。自然は年を取らずに変わりなく、梅雨の間の水を集めた滝はゴウゴウとした姿を見せてくれ、一方よどみの子魚の魚影は心をいやす。初めて訪ねた方々の感激は大きかったようだ。「超超ゆっくり登山」の後は山麓の温泉「山水園」で疲れをとり、久しぶりに王将で「反省会」をし、暗くなって道を安全運転で京田辺にもどった。帰宅も超遅い時間となった。

累積標高差; 上・下数共 数百メートル、1.7万歩。

ヒヤリハット:なし

【感想文】

初めての「ゆっくり山行」、とにかく楽し〜い。

いきなりの登り！

長坂山へいきなりの登りです。しかしそんなに、苦しくない。おしゃべりも出来る。ゆっくり登っているからです。緑の木々のお陰で直射日光もあまり受けません。涼しく、ゆっくりと、おしゃべりしながら登り切りました。

展望どころで昼ご飯！

木々の間から下界が垣間見える絶好の広場でお昼ごはん。時折吹き抜ける涼風が気持ちいい。山下さんからきゅうりのお漬物を頂く。大量に頂く。ぱくぱく食べて、まるでバツカカッパになった気持ちです。水分補給にもなって元気がでました。後半頑張れます。

滝の涼しさ！

豊かな水量を誇る種々の滝流と透き通ったきれいな水をたたえる滝つぼを巡ります。百畳岩付近に降りて、滝めぐり。足場はしっかりしていて安心です。滝名からその姿を連想します。例えば、夫婦滝。二本の滝流を見ます。しかし想像しがたい滝名もあります。例えば「荷担滝」。滝名から想像するに重い荷物を担いだ人々を想像して見ましたが、残念ながら、私にはそうは見えませんでした。しかし幅広で流れ落ちる滝の高さも立派な滝でした。読み方も「にないだき」だそうです。

大切なおしゃべり

① 元気な日常を送るために何を食べる？

元気なお年寄りをお見掛けすると、私は必ずお聞きします。「お元気ですが何を食べてですか？」その方はおっしゃいました。「皆さんと少し違うのは、毎日煮干し 20 匹」だそうです。私も見習いたい。真似したい。そして元気になりたい。

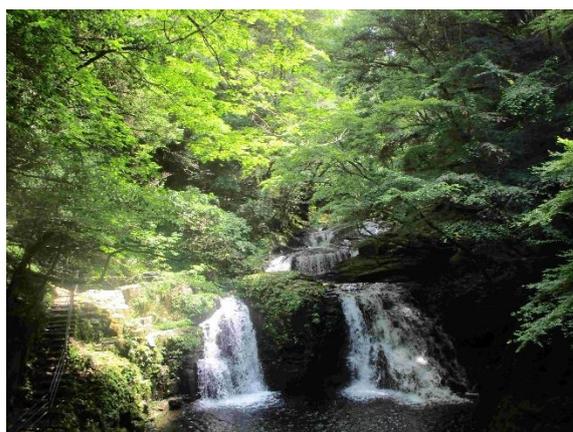
② ストックの先のゴム

すぐなくしてしまうのが、先っぽのゴム。教えていただいたのは、事前にボンドで点付け固定しておくとのこと。早速、強力接着剤で固定しちゃいました。

以上大切なおしゃべりでした。おしゃべりがたくさんできる、「ゆっくり山行」が大好きです。

新人・初心者・高齢者の藤井でした。

2024.7 月



「荷担滝」



「長坂山 山頂」